

会議結果報告書

会議名称	第3回札幌市子どもの権利委員会
日時・会場	平成22年2月9日(火) 16:30~18:00 S T V北2条ビル6階A・B会議室
出席委員	13人出席
次回開催	平成22年4月開催予定(詳しい日程は時期が近付けば調整する)

議題	概要等
<p>1. 議題 「子どもに関する実態・意識調査について」</p>	<p>調査票の修正案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料3、4、5により、第2回委員会での議論と委員会後に提出された委員の意見を踏まえて修正した事項等について説明。 ・子ども用の調査票は「中学生~18歳以下用調査票(中高生用調査票)」、「小学生用調査票」の2つに分け、小学生用は中学生よりも設問を減らすなどして回答しやすくなる工夫をした。 ・主な修正として、大人用については、意見表明権に関する問10に、「家庭で大事な物事やルールについて意見を言うこと」という設問を追加。子ども向けについては、大人用の問10に対応する問いとして、小学生用に問18、中高生用に問25を追加した。また、子ども向けには、放課後や休日の過ごし方を尋ねる質問として、小学生用に問7、中学生用に問8を追加した。 <p>子ども用の調査票を分けることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正案のとおり、子ども用を「小学生用」と「中高生用」に分ける。 <p>大人用調査票の修正案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意見表明権に関する問10に、「家庭で大事な物事やルールについて意見を言うこと」という設問を追加しているが、「大事」という言葉があると親は身構えてしまうので、「大事」はなくても良いのではないかと。 ・家族が話し合うことはほとんどが大切なことだと思うので、「大事」を付けることで、かた苦しさを感ずるのなら外しても良いのではないかと。 ・家族で「大事」な事柄があったときに、子どもの意見に従うという意味ではなく、子どもの意見を聞く構えが親にあるかどうか聞くということで、「大事」を付けた方がよいのではないかと。 ・修正案のとおり「大事な」とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・問10の設問2「学校行事の企画運営に意見を言うこと」について、学校行事には遠足や儀式的行事など様々なものがあり、企画についても職員会議で作るものもあれば、子どもが関わって作るものもある。「学校行事の企画運営」という言葉では、イメージがはっきりしないのではないかと。 ・子どもが企画のどの段階に参加するかは行事の内容によるし、行事の内容によっては主に教師が企画運営を行うものもある。 ・教育課程やカリキュラム以外の学校の行事について意見を言うことができるかどうかを問うものとして、この設問を設けることとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大人の心がけを質問する問26について、子どもの権利(意見表明権)に

対する認識に関する選択肢と、その他のことに対する認識に関する選択肢が混ざっているよう思われるが、なぜか。

- ・子どもの権利条例では、子どもの意見表明権の対になるものとして、大人の責務についても規定しているので、問26では、子どもの権利に対する認識を直接問うもの以外に、日常生活の中で大人が子どもとどのようにかかわっているのかを問う選択肢も設けている。

「小学生用調査票」と「中高生用調査票」の修正案について

- ・意見表明権に関する質問である大人用の問10に対応する質問として追加した小学生用の問18、中高生用の問25の設問数が、中高生用については大人用にある「ボランティア」に関する設問を減らして6項目、小学生用については「ボランティア」と「クラブ活動」に関する設問を減らして5項目にそれぞれ減っているのはなぜか。
- ・中高生用については、ボランティアに関して問11で詳しく質問しているため削除した。
- ・小学生用について、「クラブ活動」については、中学校での部活動を想定して設けた設問なので削除した（中高生用、大人用ともに「クラブ活動」を「部活動」に修正する）。また、「ボランティア」については、回答しやすくする工夫として設問を減らすために削除した。
- ・小学生用の問18、中高生用の問25にある「家庭における大事な物事やルールについて意見を言う」という設問について、子どもには、大事なことに限らず、家庭で何でも話すことができるかどうかを聞く必要があるのではないか。
- ・何でも話せるかどうかを直接聞いているものではないが、子どもと話すときに保護者の態度について質問している小学生用問13、中学生用問17で、その主旨は捉えることができると考えられる。
- ・放課後や休日の過ごし方について質問している小学生用問7、中高生用問8について、平日は大人が忙しいため、休日は家族と過ごしたいと思う子どももいるので、「家族と過ごすこと」という選択肢を追加してはどうか。
- ・部活動、勉強、買い物、公園や空き地で遊ぶこと等も、選択肢として考えられるのではないか。
- ・選択肢として考えられるものはいろいろあるが、現在の選択肢の中である程度カバーできそうなものは追加せず、「家族と過ごす」という選択肢を追加する。
- ・子どもアシストセンターについて、例えば小学生用では問14と問19で質問しているが、相談機関全般について質問している問15にまとめることはできないのか。
- ・子どもアシストセンターについての認識を詳しく把握することや、効果的な広報のポイントなどを知ることのために、複数の設問を設けている。
- ・大人用の問18で、子どもに将来どのような大人になってほしいかと質問しているが、子ども用にはこのような主旨の設問がないのはなぜか。
- ・平成19年に実施した子どもの安心と救済に関する実態・意識調査の中で「将来の希望があるか」という設問があり、その結果を利用することも可能だと考えられる。また、子ども用についてはボリュームを減らす必要もあるため、この設問は設けていない。

	<p>その他の意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人用問9の文章にある「子どもにとってやさしいまち」の「やさしい」という言葉について、子どもと接する中では、子どものわがままに毅然とした態度をとることが必要な場合がある。「毅然」は、「やさしい」の反対の「厳しい」という言葉につながるが、子どもにとって厳しいことをすることが、子どもに喜ばれることも多い。「やさしい」という言葉の扱いは慎重にすることが必要ではないか。 ・厳しさの裏に愛情があれば、それはやさしさだと理解する。「やさしいまち」とは、生きやすい、育ちやすいまちだと考える。「やさしい」とは「常に甘い」ということではない。 ・さまざまな家庭を見ていると、子どもは休日に両親と過ごしたいと思っ ていても、すべての親が子どもと過ごしたいと思っ ていない。母親も父親も疲れていて休日はゆっくりしたいという家庭もあることが わかる。
2 . その他	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票については、委員会の結果をもとに事務局で最終チェックを行い、 完成した調査票を、後日、各委員に送付する。 ・調査のスケジュールについて、3月の初めに調査票を発送し2週間程度 で回収する。 ・第4回委員会は4月開催予定とし、今回の調査の集計状況の確認と、平 成19年度に実施した安心と救済に関する実態・意識調査など子どもの権 利に関する推進計画を策定するうえで利用できる過去の調査の結果を確 認する。 ・子どもの権利救済委員からの状況報告については、どの時点で実施する ことができるのか事務局で日程調整を行う。